

A Letter from the Career

Guidance Office No18 May25

今日からは推薦入試制度について紹介します。まずは国公立大学の推薦入試です。

- 一般推薦入試 ➡ [学校推薦型選抜へ](#)
- 国公立大学の定員の 30% は推薦・AO 入試で
- 推薦 AO 入試の人気高まる 志願者増加 平均倍率 2.6 倍 理系人気
- 入試科目
 - 共通テストなし型（人気高い）
 - 書類・論文・面接型が主流
 - 共通テストあり型（約 4 割）
 - 書類・面接・共通テストの得点
 - あるいは（1 次試験）書類・共通テスト＋（2 次試験）面接

来年から、一般推薦入試は「学校推薦型選抜」に変わります。これまで出願は 1 1 月以降、合格発表の時期は決まっていませんでしたが、今後、合格発表は 1 2 月以降に変更されます。

また国公立大学では、これまで推薦入試の枠は大きくありませんでしたが、文部科学省が「定員の 30% は推薦 AO 入試で」という方針を打ち出し、東京大・京都大・大阪大・神戸大などでも推薦 AO 入試が始まりました。

国公立大学の推薦には「共通テストあり」型と「共通テストなし」型の 2 つのパターンがありますが、共通テストなし型の方が人気です。しかし、近年、共通テストあり型の推薦が増加傾向にあります。今年は相生高校から、センターテストなし型推薦で、岡山大 2 名、滋賀大 1 名、兵庫県立大 1 名、新見公立大 1 名が合格しました。またセンターテストあり型推薦では、静岡大 1 名、新見公立大 1 名、香川大 1 名、徳島大 1 名が合格しました。

次に入試科目の具体例です。

神戸大国際人間科学部

【第 1 次選抜】調査書・志望理由書・活動報告書・TOEFL iBT スコア 65 点以上

【第 2 次選抜】面接・口頭試問

【最終選抜】センター試験 280 点 以上（400 点満点）



推薦では学力だけでなく、面接や小論文対策も重要です。小論文は90～120分で、800～1200字のパターンが多いようです。今年、よく取り上げられたテーマは、「消費税引上げ」「働き方改革」「AI」「ドローン」「仮想通貨」「給付型奨学金」などが取り上げられました。来年はどのようなテーマが取り上げられるでしょうか？

来年の推薦・AOについて

文部科学省では、新型コロナウイルス感染症に対応するため、来年の推薦・AO入試の面接をオンラインでも実施できるように準備することを、5月14日、全国の大学に指示しました。状況によっては、面接試験がオンラインでおこなわれることになるかもしれません。